

認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク主催
学生による「子ども虐待防止オレンジリボン」運動全国大会（報告会）

平成 29 年 2 月 5 日

当団体初の試みとして、全国の学生によるオレンジリボン運動の活動報告会を行いました。オレンジリボンの認知率が一向に低い中、学生達の普及に向けた懸命な努力を称えることはもちろん、このような場を通じて全国で同じように努力している仲間と出会い、繋がり、そしてその活動方法からその後の活動を発展・改善させるための気づきを得てもらう目的で開催を決意いたしました。今回は平成 28 年度の学生オレンジリボン運動参加校の中から、広島文化学園大学看護学部、東北文教大学短期大学部、佐野短期大学、東京福祉大学、目白大学、貞静学園短期大学の計 6 校が選出されました（申込順）。

<広島文化学園大学看護学部>

被災者支援や介護老人施設を通じたボランティア活動経験から結成された同校のボランティアサークル。特に地域住民をターゲットにしたオレンジリボンの啓発運動と意識調査の活動をメインに行っております。様々なイベント機会を積極的に活用しているのが特徴で、市の子育て支援課や養護施設などの関係機関と協調しながら行う活動には力強さが感じられました。

<東北文教大学短期大学部>

東北文教大学短期大学部は地元山形での活動を行っております。裁判の傍聴を行うことで問題をよりリアルに感じ取り、それを学園祭で来場者へ伝えました。来場者受付横にブース設置する工夫により、より多くの来場者にリーフレットとオレンジリボンの配布をすることもできました。学生だけでなく地域住民にも広く関心を持っていただくことができ、今後も運動を継続することで活動の輪を広げていくことを考えております。

<佐野短期大学>

「子育てにやさしい社会の構築」を願う佐野短期大学は、運動の契機となった栃木県での活動を行っており、市役所や道の駅「どまんなかたぬま」との連携した活動が特徴です。オレンジリボンと合わせて啓発カードを配布、説明することで、より深く知っていただく工夫もしております。また、周知を目的にメディア活用も行っており、地元テレビ局からの取材や新聞からのインタビューを受けるだけでなく、国土交通省からの評価もあり HP での記載もされ、学生による取り組みのモデルケースとして全国へ影響を与えています。

<東京福祉大学>

東京福祉大学の活動は、取り組みの意義や目的、活動プランが非常に綿密であることが目を引きました。学校全体での取り組みが行われているため、地元伊勢崎市との連携

も深く、メディア活用も相まって広い影響力を持つように感じられました。今後の方針として、本会を機とした全国・県内の諸大学との連携推進も視野に入れており、東京福祉大学が起点となったオレンジリボン運動の全国展開には期待が持てました。

<目白大学>

先生からの提案で始まった目白大学のオレンジリボン運動。非常に特徴的であったのは、発表途中に始まった人形劇です。小学生をターゲットにした予防的活動を行うために、オリジナルキャラクターの「オレンジャー」を作製しました。人形劇や紙芝居を通じてまずは興味を持ってもらい、そしてわかりやすく伝えるための工夫は、会場からも高い評価の声が挙がっておりました。

<貞静学園短期大学>

同校のオレンジリボンサークルは主に学園祭という場を活動主体に置きました。虐待の深刻さをどのように伝えるか試行錯誤し、オレンジリボンの配布だけでなく、ポスターや学内CMを独自に作製。文字や言葉の説明だけではなく、視覚的なアプローチを有効活動することにより、オレンジリボン運動のことを全く知らない学生が多かった状況から、その多くに知ってもらうきっかけ作りをすることができました。

各校緊張の面持ちの中、創意工夫を凝らした発表が行われ、質問も多く飛び交いました。児童虐待の問題は子育て世代だけではなく、これから子どもを持つ世代においても重要な課題です。若い世代からの発信が活発になり、また本会を通じて全国で活動している大学同士が繋がることで、オレンジリボンのより広く、深い啓発が行われることを願っております。

【結果】

オレンジリボン大賞：目白大学

オレンジリボン奨励賞：佐野短期大学

厚生労働省児童虐待防止対策推進室室長賞：東京福祉大学

報告

オレンジリボン委員

辻 翔太